東住吉中学校　校長室だより　　令和3年度 No.33

ひまわり

令和4年1月17日（月）

1.17 防災

1995年（平成7年）1月17日未明、淡路島北部を震源とする兵庫県南部地震が発生しました。この時の災害を、阪神・淡路大震災と呼んでいます。地震の規模はマグニチュード7.3、最大震度は７でした。マグニチュードは地震のエネルギーの大きさを示し、この数値が１つ大きくなると、エネルギーは31.6倍になります。震度７は、多くの建造物が傾いたり、倒壊するレベルの揺れです。マグニチュードと震度の関係は、震源からの距離で変化します。このことについては、２、３年生はすでに学習し、１年生はこれからになります。

この地震は、大都市の直下で発生したものであり（都市直下型地震）、人口が密集する地域で起こったため、甚大な被害がありました。死者は約6,400人、負傷者は約44,000人、約690,000棟の建物が被害を受けました。同規模の都市直下型地震が、大阪で発生することはないのでしょうか。

結論から言えば、大阪には豊中市から大阪市内を通り、岸和田市まで伸びる全長42kmの活断層（上町断層、今後もずれる可能性のある地中の切れ目、地震の原因のひとつ）があり、この活断層が動くことで大きな被害がでます。この断層が原因で、今後30年以内に地震が発生する確率は２~３％と予想されています。なんだ２~３％かと思うかもしれませんが、国の評価では、地震発生確率としては「高いグループ」となっています。つまり、いつ大阪で大地震が発生してもおかしくはないのです。

そこで大切になってくるのが、私たちの防災意識です。災害に対する日頃からの備えが必要になってきます。台風ならば、事前の進路予測や被害予測から、対策できることも多くあります。しかし、地震に関しては、現在の科学をもってしても、その予測は困難を極めています。

先日、冊子「みんなで備える防災」を配布しました。２ページから10ページまでが地震に関することでした。そこには、地震発生時から揺れがおさまってからの行動など、命を守る行動が示されています。しかし、大地震が突然やってきたとき、マニュアルどおりの行動ができるでしょうか。おそらく多くの人はパニックになり、マニュアルどおりの行動はできないでしょう。だからこそ、日頃から災害発生時の適切な行動を繰り返し頭に入れておく必要があるのです。また、避難訓練をとおして、冷静に行動できるスキルを身につけることも大切なのです。阪神・淡路大震災から27年目の今日、あらためて「防災」・「減災」ということに目を向けてみましょう。

参考資料

2021年に国内で観測された地震

・震度1以上 2406回　・震度3以上 233回（そのうち6回が震度5強以上）

※震度５強ではブロック塀が壊れることがある。

※日本は地震大国：世界で発生しているマグニチュード６以上の地震の約20%が日本周辺で発生している。